

# 安曇野市 農業委員会だより



光城山付近から安曇野眺望



長峰山頂から安曇野田園風景



大足地区清水の棚田

## ● 主な内容 ●

- ・ 安曇野の風景 ..... 表紙
- ・ 農業委員会活動(豊科)の紹介 ..... 2
- ・ 農業振興等功労者表彰 ..... 3
- ・ がんばる農業者 ..... 4・5
- ・ 農業委員退任の挨拶 ..... 6
- ・ 貸したい・売りたい 農地情報 ..... 7
- ・ 私のおすすめ ..... 8
- ・ 旬の一句・一首 ..... 8
- ・ 編集後記 ..... 8

発行日/令和6年7月18日(木)

編集と発行/安曇野市農業委員会

安曇野市豊科6000番地

tel0263(71)2497

農業委員会事務局ホームページアドレス

<https://www.city.azumino.nagano.jp/soshiki/49/>

申請書、届書のダウンロードができます。



## 農業委員会活動(豊科)の紹介

### ―はじめに―

豊科地域農業委員会は、農業委員5名、農地利用最適化推進委員5名の10名で構成されています。豊科地域委員会では毎月末に開催される定例総会に先立ち豊科地域内で申請されている農地法3条4条5条等の許可申請案件について現地確認をし、検討を行い、定例総会に提出します。地域委員会は地域農業の在り方を検討し、方向付けをしていかななくてはなりません。地域の実情に詳しい委員からの意見、提案をしっかりと検討、話し合いを行っています。

豊科地域は豊科、南穂高、上川手、高家の4地区から成り立っています。農業はおおむね稲作を基本とした土地利用型農業ですが、中山間地を抱える上川手地区は様相が少し違ってきます。東山山麓は南北に長く、それに沿いJR篠ノ井線があり、一段下には国道19号線が、その下段には犀川が流れているという条件でその間隔が狭く土地利用型農業には不向きな地

圃場整備が待たれる耕作地

勢となっております。

### ―取り組み―

上川手地区では、担い手の不足や農地維持のために歴代の農業委員の方々も窓口となり、株式会社かまくらや及び株式会社ファームめぶきの2社を中心に委託を行い、農地の維持管理に努めています。2社とも当初はソバの栽培に取り組んでいましたが、土壌が粘土質であるため、水はけが悪く湿害により収量が上がらないため、現在は稲作及び麦、大豆の体系が主となっております。

また、近年は鹿の食害が頻発するようにになり柵の設置等の経費が余分にかかるため対策が望まれるところです。

このような条件下で農地を維持管理していかなくてはならないわけですが、一番の課題はそれぞれの圃場の面積が小さく作業効率が悪いので、圃場整備を行うことができないかという問題です。過去には圃場整備について話し合いがもたれ、検討した経過がありますが、地主、地権者が多いことに加え、農業をやっていくのに、これ

以上お金をかけたくない等の意見によりなかなか前に進むことができませんでした。今後、これらの圃場をどうしていくのが課題となっております。また、地域計画策定にあたっての話し合いも持たれています。

### ―最後に―

これまで豊科上川手地区についての事例を紹介しましたが、他地区でも地域計画の検討が行われており、将来の農業や農地の在り方について方向付けをしています。

また、農業委員が関わり、豊科南小学校と豊科東小学校の稲作体験の圃場でのコーティング等を行っており、稲作体験を通じ子供たちの農業に対する考えを深めてもらえるよう取り組んでいます。

豊科地域委員会では、農地を守るため様々な場面を想定し、検討を行い、情報発信、提言をしていきたいと思っております。

## 地域農業振興等功労者表彰



安田 大樹さん (38歳)

穂高柏原

地域に根差した活動を行っており地域農地の維持と保全に努めていることが評価されました。

この度は、松塩筑安曇農業委員会協議会において「地域農業振興等功労者表彰」を頂きまして、誠にありがとうございます。

私は平成24年に脱サラし親元就農しました。現在は安曇野市穂高地域で水稲・麦・大豆の栽培を家族経営で行っています。就農当時は麦の後作が可能な品目として大豆の栽培を取り入れはじめたころでした。

大豆の栽培では倒伏、連作障害、湿害、干ばつ等の様々な課題に直面しましたが、現在ではほぼ全ての課題に対応できており、過去4年間の大豆の平均単収は320kgで全国平均の2倍近くを維持できています。

「第51回（令和4年度）全国豆類経営改善共励会」では高単収への取り組みが評価され、全国最高位の農林水産大臣賞を受賞することができました。

農業の担い手不足が深刻化する

中、この全国的にも恵まれた安曇野の農地をより付加価値の高いものとして維持していくためにも、

時代に合わせた農業技術の導入が重要です。しかし、日々新しくなる技術全てが地元で使えるわけはありません。この数年を通して、経営改善をしていくためには個人ではなく、試行錯誤した結果を水平展開して共有できる「仲間」の存在が必要だと強く感じています。

「社会」も「気候」も「価値観」も変化の激しい現代において、いかに多様な価値観を内包しつつ地域農業を成り立たせられるかが課題になってくると思います。

個人の勝ち負けではなく、安曇野市を「農業を仕事にできる全国に誇れる営農地」とするべく、地域一体となり広い視野で今後の農業のあり方を考えていきたいと思っています。



飯島 泰俊さん (48歳)

三郷明盛

生産技術・品質の向上にも大きく寄与され、地域農業の発展に貢献していることが評価されました。

この度は、松塩筑安曇農業委員会協議会において表彰いただき誠にありがとうございます。

現在、連棟ハウス30aでポットマム（洋菊）の栽培をしています。

地元の農業高校卒業後、東京農業大学短大で学び、その後デンマークに1年留学しました。

23歳で就農し、今は父親と2人で関東関西の市場を中心に年間約14万鉢ほど出荷しています。

工夫している点は、鉢の大きさを差別化し配送費用などコスト効率を高める努力をしています。現在の悩みは物流の2024年問題に直面し花専用の配送会社の倒産などで出荷を1日おきにせざるを得なくなり出荷量の調整が難しくなっています。

経営的には楽ではありませんが、今後も末永く農業に従事できればと思っております。



連棟ハウス

# がんばる農業者



**米倉 秀樹さん (58歳) (堀金)**  
経営面積 水稲 (WCS) 稲21 ha  
小麦 8 ha  
大豆 6 ha

**Q1** 農業を始めたきっかけは？

**A1** 東京農業大学を卒業後、実家の酪農を継ぐため就農し、水稲との複合経営に携わって来たが、8年前に酪農を止め、水稲を主体とした経営を兄弟2人で営んでいます。

**Q2** 農業経営で大変なことは？

**A2** 自然が相手の仕事なので、作物の栽培環境が毎年一定ではないし、田畑も1筆ごと違ったりします。その中で適切な作物管理を行わなければなりません。毎年農業1年生の気持ちで臨んでいます。ですので、無事に作物の収穫が迎えられた時の喜びは格別です。

**Q3** 現在取り組んでいる取り組みは？

**A3** 省力化のためにWCS稲で湛水直播を行っています。育苗の手間が省けると、収穫期の分散が図れるし、畜産農家のためにもなるので今後も続けて行きたいです。また、堆肥を使って化学肥料ゼロのコメ作りに取り組み、直売所で販売しているのですが、消費者の評判も良く、美味しいと喜んでいただいています。

**Q4** 今後の目標は？

**A4** 今後も安曇野の美しい田園風景を守って行くように、できる限り農地は引き受けたいのですが、一個人の力では限界もあります。法人化も含めた大規模経営体への道も模索していく必要があると感じています。



トラクター



育苗ハウス

# がんばる農業者

**深澤 隆茂さん** (56歳) (明科)

経堂面積等 水稲15a、麦、大豆  
7aを無農薬有機栽培に挑戦中



**Q1** 深澤さんが農業を行なうようになったきっかけは何でしたか？

**A1** 安曇野に移住して、野菜のおいしさに目覚めたからだと思います。こちらには遊びに来て空気がおいしいこと、環境が良いことに惹かれて移り住みました。冬は寒いんですけどこちらの寒さは気持ちがいい寒さだと思いますし、い

ろんなことに感動しました。

特に都会で暮らしているときは全然感じなかったんですけど、近所の家庭菜園をやっている奥さんからいただいたネギが美味しくて本当にびっくりしました。野菜ってこんなにおいしいんだと思いました。こんなに美味しいなら自分で作ってみたいと思い野菜作りから初め、数年してから家内に勧められて稲作をやることを思い立ちました。田んぼは農業委員会から紹介していただきました。

**Q2** 有機農業は相当に難しいと思いますが、今までどのようにされてきましたか？

**A2** 自分で色々勉強したり、あちこちで沢山の人が教わったりしました。地元の人にも協力していただいて、小さなトラクターを購入し、最初は田植え機もこの辺で使う普通の機械でやりましたが、有機栽培をするのに、この田植え機が適していることが分かってネットで購入しました。ポット苗で活着がよく深水ができるので除草がだいぶ助かります。植えてから米ぬかとぼかしを混ぜて一面に散布します。それから早めにチェーンを引っ張って短時間で最初の除草が終わりです。中期には2条用の田車で除草します。これはちょっと大変ですが、そのあとは稲の方が優勢になるので、特に除草は必要がなくなりますね。肥料は米ぬかと糞です。秋はハゼ掛けで天日乾燥し、主に自家用にしていますが、消費しきれないので知人にも買ってもらっています。畑では麦と豆を作って味

噌づくりもしています。これも知人に分けていますが、評判が良いです。

**Q3** 今、深澤さんが目標としていること、やってみたいことがあれば教えてください。

**A3** 自分が動けるうちはできるだけ長く今のままやっていきたいと思っています。沢山やろうとは思いませんが、工夫しているんなアイデアを一枚の田んぼで実際にやってみることに、その結果が出てくるのが楽しいですね。やらされ感ではなく、楽しんでやるのが良いです。私の経験では都会の食生活では味付けで美味しさを加えています。私としてはこれではちょっと食べているものが信用できません。こちらの農産物の美味しさは全然違います。自分が食べて旨いものを自分で作り、知り合いにもリーズナブルに譲ることができれば嬉しいです。これからも続けていきたいと思っています。



使用する田植え機



除草用のチェーン

# 農業委員退任の挨拶

## 会長

中島 完二

安曇野市の皆様におかれましては、日頃から農業委員会の活動に対しまして、ご理解ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。我々第7期の農業委員会は、農業委員24名、農地利用最適化推進委員27名、計51名で令和3年7月に発足しました。当時は新型コロナウイルスの感染症対策で農業委員活動が制限される中、委員の皆様は責務を全うされたことに心から感謝を申し上げます。令和5年4月には、「人農地プラン」が「地域計画」として法定化され、現在農業委員会は

全力で地域計画の策定を進めております。我々の任期は今年の7月までとなりますが、無理なく着実にできる計画となる様、次期の委員の皆様を引き継いでいきたいと思っております。又、私はこの3年間、会長という大役を仰せつかったわけですが、皆様のご協力を頂き、無事大役を果たすことが出来ました。皆様のご健康と、益々のご活躍をお祈りし、感謝の言葉とさせていただきます。

## 地域長

### 豊科

長崎 要

### 私の荒廃農地対策の失敗談

担当地区内に、畑2枚の遊休農地がありました

た。地主は不詳。探したら松本市内の施設に入所されていることが判り、その施設を訪問するも本人には面会できず。ようやく嫁いだ娘さんを探し出して話し合いをしました。1年目は私も手伝い草刈り作業をし、消防署に許可を得て枯草の焼却。2年目、娘さんと連絡が取れなくなり、今は雑木が育ち、完全な荒廃農地となりました。

## 穂高

平川 邦夫

安曇野市農業委員会として3期9年務めさせて頂きました。年月を重ねるにつれ多くの方の出会いと共に、改めて地域農業の実態を見るにつれ危機感を覚えるに至りました。その中で県外からの新規参入希望者が我が家を訪れ、何時間も議論を重ね無事就農でき、その後元気でやっているとの事、冥利に尽きる業務でした。又、特に、西山山麓の猿害対策について、話し合い等重ね、自助、共助の体制に何とかこぎつけました。最後に今迄の10年とこれからの5年は高齢化も相まって、取り巻く環境が大きく変わる事が予想されます。地域計画の策定を含めスピード感を次期に期待します。

## 三郷

麩 信

第7期三郷地域委員は、毎週担当地域の農地パトロールによる荒廃農地・遊休農地の発生防止解消に向け活動をしてきました。農地を貸したい農家には農地中間管理機構を利用した利用

権の設定により担い手農家に農地の集積を推進してきました。地域計画策定に向け農家に情報提供を行い事業を推進していきます。

## 堀金

矢淵 一良

高齢が進む中、担い手不足も発生している中で地域を見る農業委員の重要性が増してきています。地域計画を策定する中益々活動する必要性が出てくると思います。3期委員として、地域を守る委員の皆さんと活動を共にしてきました。どうも有難うございました。今後も地域を見守りたいと思います。

## 明科

池上 洋助

5期15年の農業委員会生活が終わります。この間に様々な体験をしましたが、農業委員にならなかつたら絶対にあり得ない事がこの身に起こりました。それは狩猟免許を取得し、銃保持者になったという事です。荒廃農地再生に伴い発生する鳥獣被害の重大さを目の当たりにし、自己防衛策も必要だと考えました。特に明科地域は中山間で鳥獣被害も深刻な問題です。今後は安曇野市鳥獣被害対策実施隊員という立場で、微力ながら取り組んで参りたいと考えています。長い間大変お世話になりました。安曇野市農業委員会の益々の御発展を御祈念申し上げます。筆を置きます。

# 貸したい・売りたい農地情報

農業委員会では、農地の利用促進と遊休農地の解消を図るため、農地の貸借や売買希望の農地の情報を公開しています。お気軽にお問い合わせください。

なお、ここで紹介する情報は農地としての活用目的に限定されています。最新情報は安曇野市ホームページでご確認ください。

【令和6年5月31日現在】



地区	地番	面積 (㎡)	地目	売渡希望	貸付希望
豊科	1976-1	3,070	田	○	
豊科	1976-2	2,111	田	○	
豊科	1977	835	田	○	
豊科	1981-1	648	田		○
豊科	2065	3,737	田		○
豊科	2075	3,789	田		○
豊科南穂高	12-1	294	田	○	○
豊科南穂高	13-2	4.66	田	○	○
豊科南穂高	16	1,884	田	○	○
豊科南穂高	2072	2,430	田		○
穂高有明	8690-1	509	畑	○	○
穂高有明	8690-3	496	畑	○	○
穂高有明	3423-1	799	田		○
三郷小倉	3770-1	257	畑		○
三郷小倉	3770-2	27	畑		○
三郷温	6783-2	135	畑	○	
三郷温	6785-1	468	田	○	
三郷温	6786	1,643	田	○	
三郷温	6787-1	1,256	田	○	
三郷温	4114-1	937	田	○	
三郷温	4224-1	730	田	○	
三郷温	4759-1	656	畑	○	
三郷明盛	2083-2	276	田		○
三郷明盛	2083-3	299	田		○
三郷明盛	2169-1	2,737	田	○	
三郷明盛	4040-1	2,630	田	○	
三郷明盛	4221	1,701	田	○	
三郷明盛	3371-1	749	田	○	
三郷明盛	2353-1	69	畑	○	○
堀金烏川	3903-1	1,364	田	○	
堀金烏川	3948	3,489	田	○	
堀金烏川	3949	3,241	田	○	
堀金烏川	4048	3,750	田	○	
堀金烏川	3268	2,572	田	○	
堀金烏川	3269	3,018	田	○	
堀金烏川	3851-1	825	田		○
堀金烏川	3851-2	1,014	田		○
堀金烏川	3852-1	1,412	田		○
明科七貴	8800	1,234	田	○	
明科七貴	5690-1	492	田		○
明科七貴	5690-2	694	田		○
明科七貴	5690-3	881	田		○
明科中川手	56-1	263	田	○	
明科中川手	56-2	335	田	○	
明科中川手	56-3	403	畑	○	
明科東川手	13795-1	868	田	○	○
明科東川手	13796-3	1,118	田	○	○
明科東川手	13796-2	1,268	田	○	○
明科東川手	13796-1	1,285	田	○	○
明科東川手	13771-1	1,193	田	○	○
明科光	91-1	794	田	○	
明科光	199-1	574	田	○	
明科光	201-5	21	畑	○	
明科光	95-1	519	田	○	
明科光	96-1	369	田	○	
明科光	97-1	907	田	○	
明科光	99-2	217	田	○	

私のおすすめ

ほりにしを使った  
新じゃがキッシュ

穂高 安田 洋子さん

材料

- ・新じゃが芋 2個
- ・玉ねぎ 2分の1個
- ・しめじ 2分の1個
- ・ウインナー 6本
- ・冷凍パイシート 2枚
- ・キッシュ液 2個
- ・卵 2個
- ・牛乳 50ml
- ・マヨネーズ 大さじ1
- ・ほりにしスパイス 小さじ1と2分の1



作り方

- ①新じゃが芋を5mmの厚さでいちよう切りにし、水にさらし水を切る。
- ②玉ねぎ・ウインナーは薄切りにし、しめじを小房に分ける。
- ③耐熱皿に新じゃが芋・玉ねぎ・ウインナー・しめじを入れ600Wで3分加熱する。
- ④キッシュ液の材料を混ぜ合わせキッシュ液を作る。
- ⑤グラタン皿にパイシートを敷きフォークで穴を開けたところに③を入れ、上から④を回しかけ、ヒザ用チーズをのせる。
- ⑥200℃のオーブンで15〜18分焼き、仕上げにパセリをちらす。



旬の一句・一首

せせらぎの

水音ふくらむ

春の朝

豊科 古幡 菊子

風鈴や

忘れ方見の

風匂ふ

穂高 有明燿

初夏の町

りんごの誘いに

心酔う

三郷 ソラ風花

織りなせし四十有余の

年経りて

卒寿の我に白き藤咲く

堀金 青柳 喜美子

田植機の 上から聞こえる

B'zの歌

次の世代へ バトンタッチ

明科 犀川 清子

編集後記

コロナウイルスも五類移行となり、安曇野でも、行事・催し等が戻りつつありますが、まだまだ拭いきれません。

このような中、果樹等の霜の害がなく、摘花の作業もひと段落したことを思います。が、今後も台風の影響等もない事を願うばかりです。

安曇野市では、農家の減少・後継者不足等が課題となり今後、地域計画を策定し、農業委員会としても農家経営を潤沢に進められるよう、農地の集積や集約を進めていきます。

農業委員会だよりの発行に、快くご協力頂いた皆様に、深く感謝申し上げます。

文責 田口 博之

【農業委員会だより編集委員会】

編集委員長 笠原 哲雄

委員 岡山きみ子

田口 博之

山田 太一

藤原 光弘

中村 洋子

丸山 隆也

請地 康仁